



## 北九州市の女性を対象とした 妊娠・出産・不妊・育児等に関する意識調査

『ルナルナ』を運営する（株）エムティーアイと北九州市は、妊娠・出産・不妊・不育の支援に係る連携・協力に関する事業連携協定を締結しています。

エムティーアイ

# 調査概要

## ● 調査の目的

北九州市在住の女性の妊娠～育児に対する意識や課題を把握し自治体の施策検討や、『ルナルナ』のサービス向上に活用する。

## ● 調査実施時期

令和2年4月10日(金)～令和2年5月6日(水)

## ● 調査対象

全国の10代～50代以上の女性：12,569名

そのうち北九州市在住の女性：116名

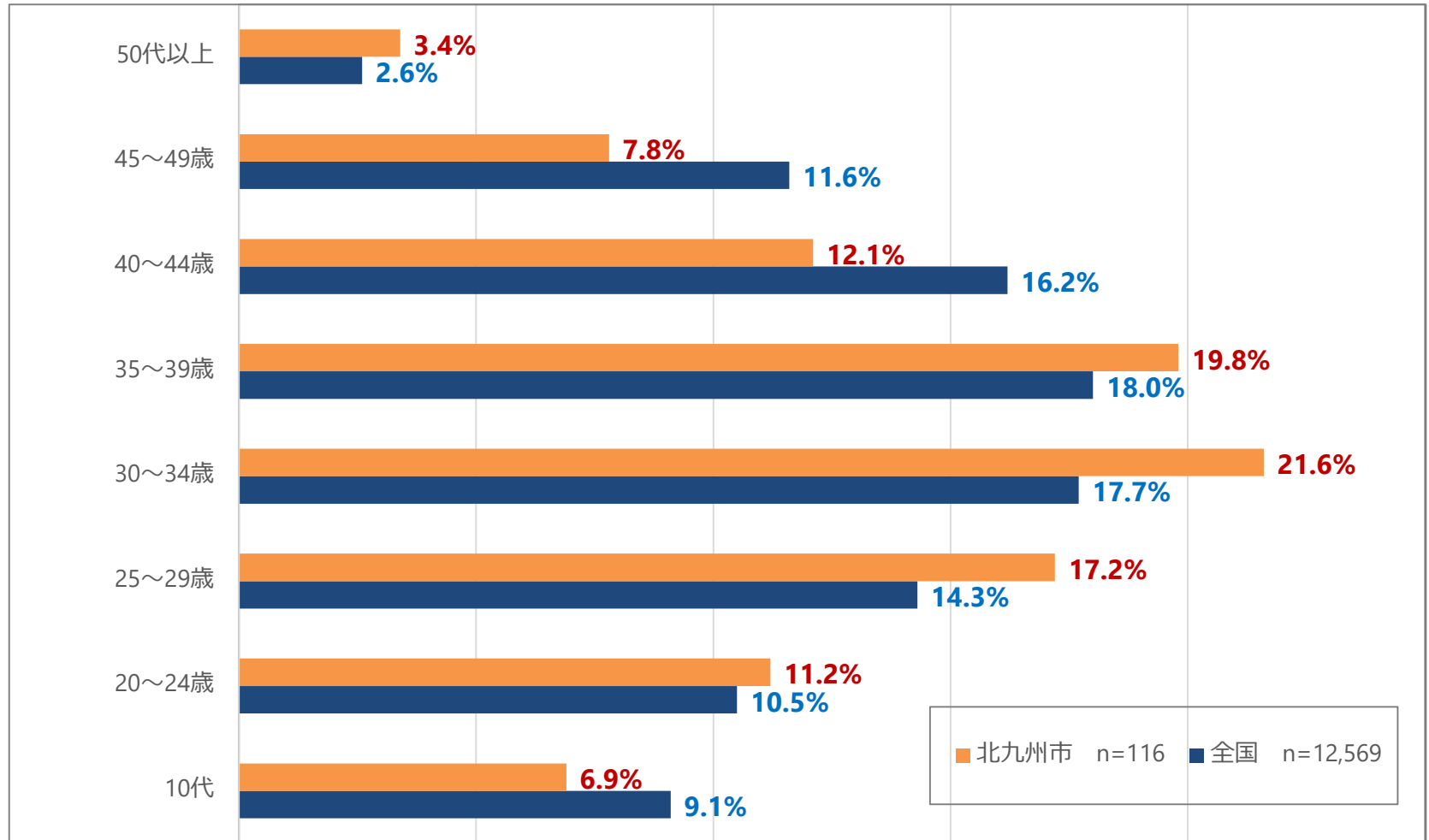
## ● 調査方法

株式会社エムティーアイが運営する女性の健康情報サービス「ルナルナ」及び「ルナルナ 体温ノート」内にてアンケート調査を実施

## 回答者の属性について

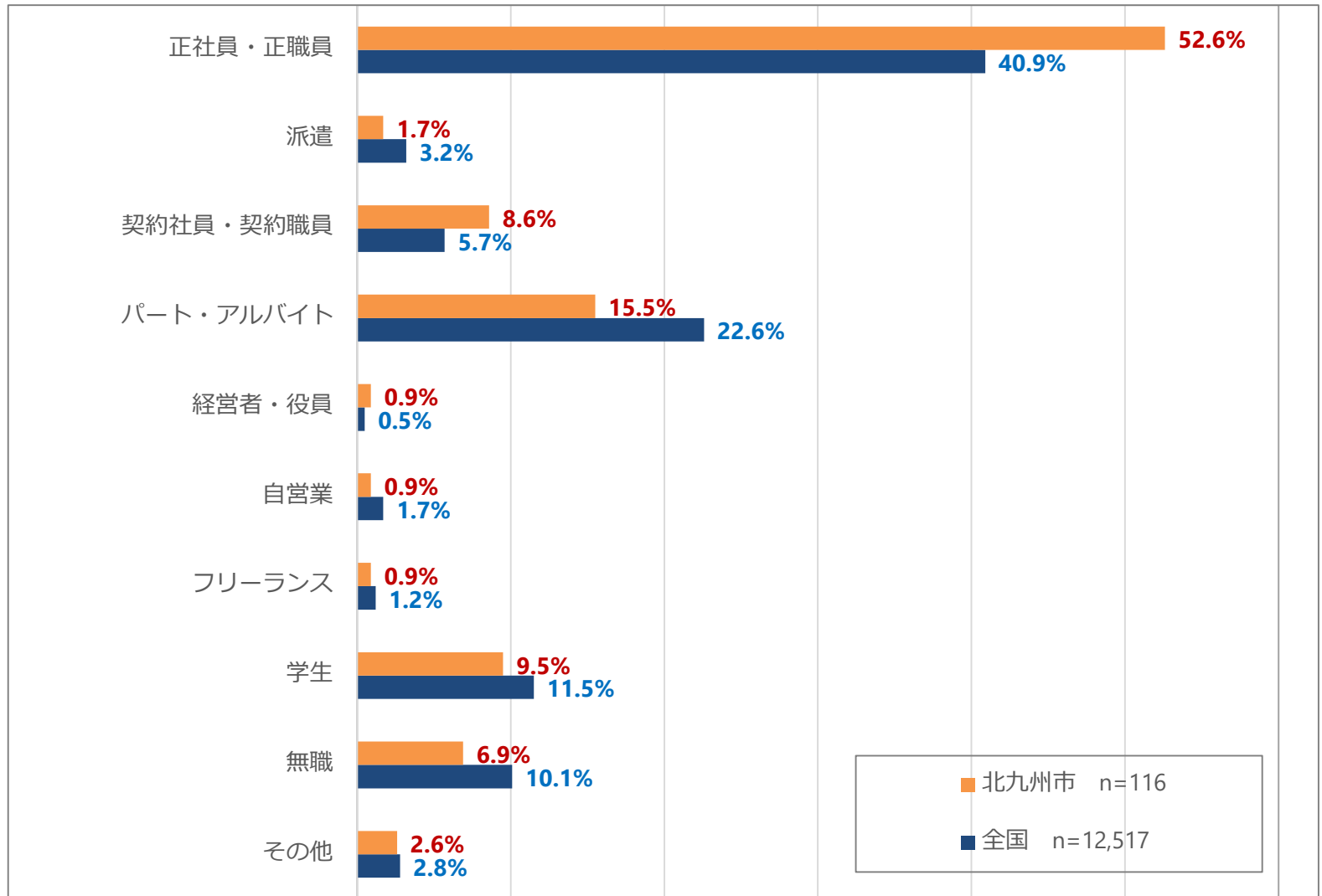
Q. あなたの年齢、就業状況、婚姻状況、お子様の有無を教えてください

【年齢】



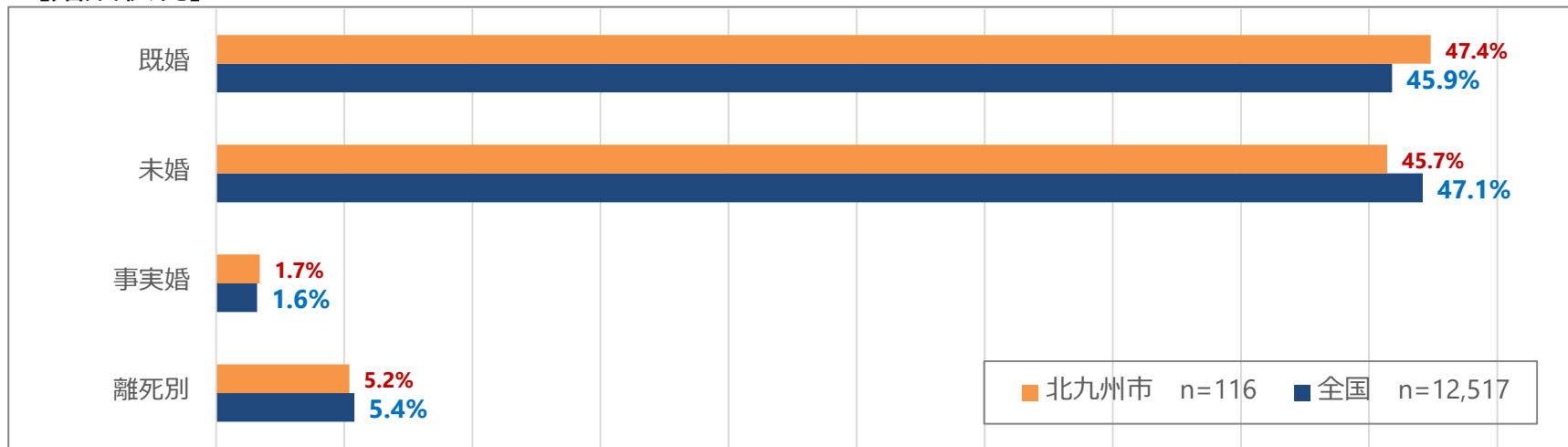
# 回答者の属性について

## 【就業状況】

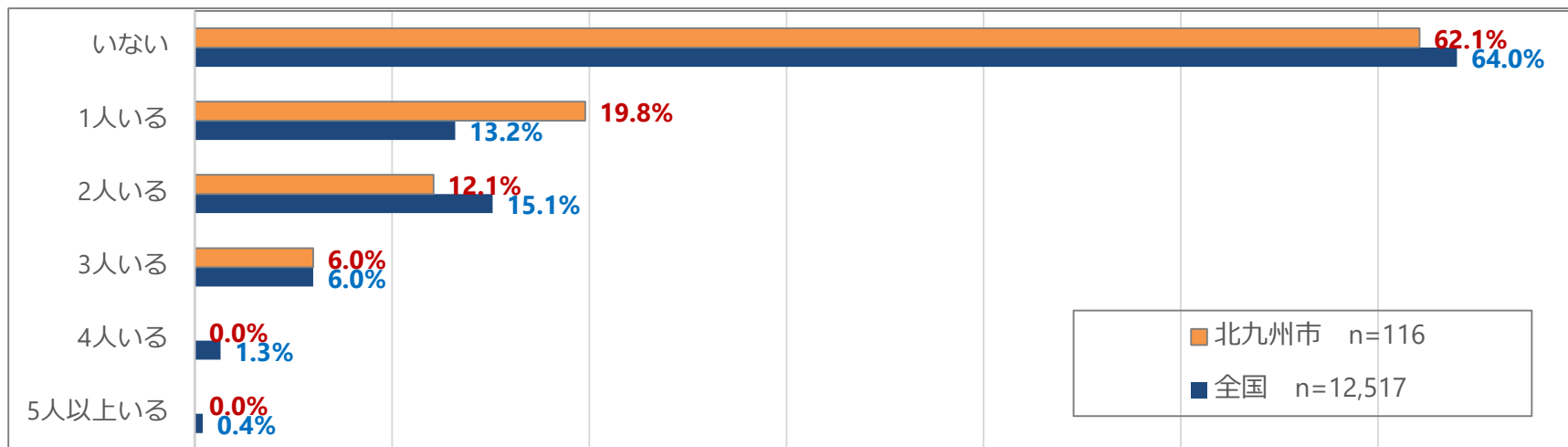


# 回答者の属性について

## 【婚姻状況】



## 【妊娠中を含む子どもの有無、人数】



# 第一子出産（予定）年齢

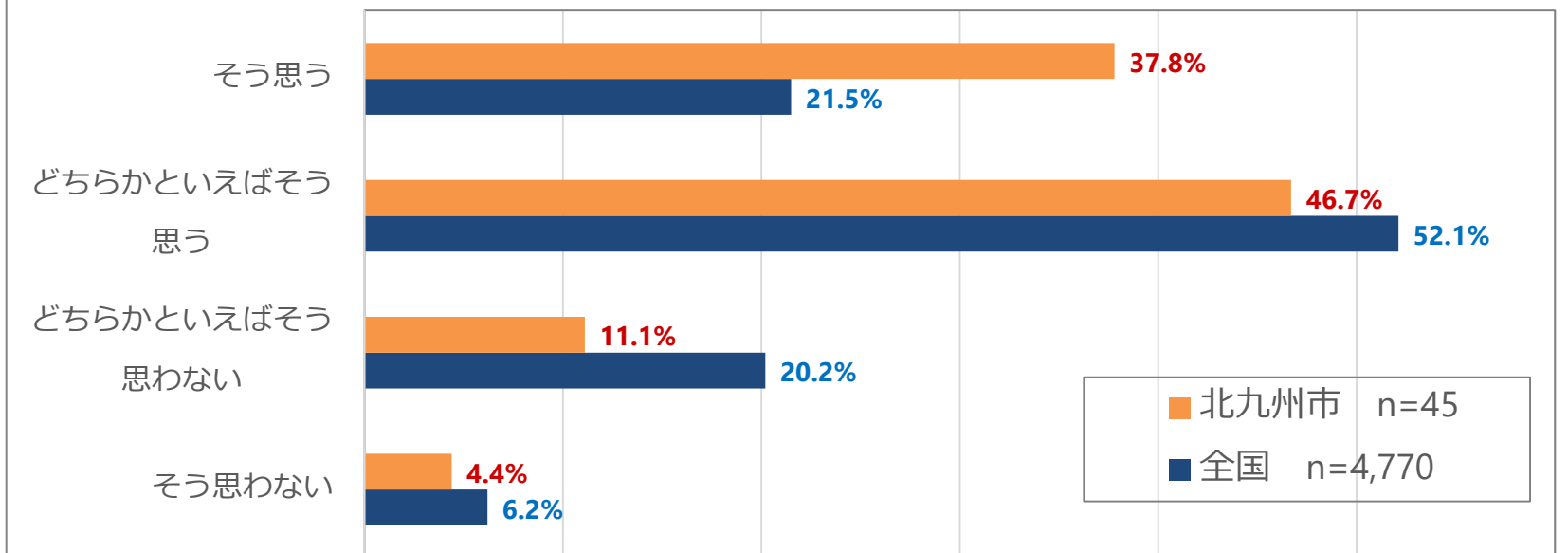
Q.（お子様がいる方へ）第一子のお産（予定）年齢を教えてください。

	全国	北九州		全国	北九州		全国	北九州		全国	北九州
17歳未満	15.5%	8.9%	20歳	4.4%	4.4%	30歳	4.8%	6.7%	40歳	0.4%	2.2%
18歳	2.5%	4.4%	21歳	4.4%	6.7%	31歳	3.7%	4.4%	41歳	0.2%	0.0%
19歳	2.8%	2.2%	22歳	5.3%	0.0%	32歳	2.7%	0.0%	42歳	0.2%	0.0%
			23歳	5.0%	2.2%	33歳	2.2%	4.4%	43歳	0.1%	2.2%
			24歳	7.2%	8.9%	34歳	2.2%	4.4%	44歳	0.0%	0.0%
			25歳	6.0%	0.0%	35歳	1.3%	0.0%	45歳以上	0.0%	0.0%
			26歳	6.2%	8.9%	36歳	1.4%	2.2%			
			27歳	6.6%	4.4%	37歳	1.0%	0.0%			
			28歳	6.0%	13.3%	38歳	0.8%	0.0%			
			29歳	6.2%	8.9%	39歳	0.7%	0.0%			

全国 n=4,483

北九州市 n=45

## Q.お住いの地域は妊娠・出産しやすい環境だと思いますか



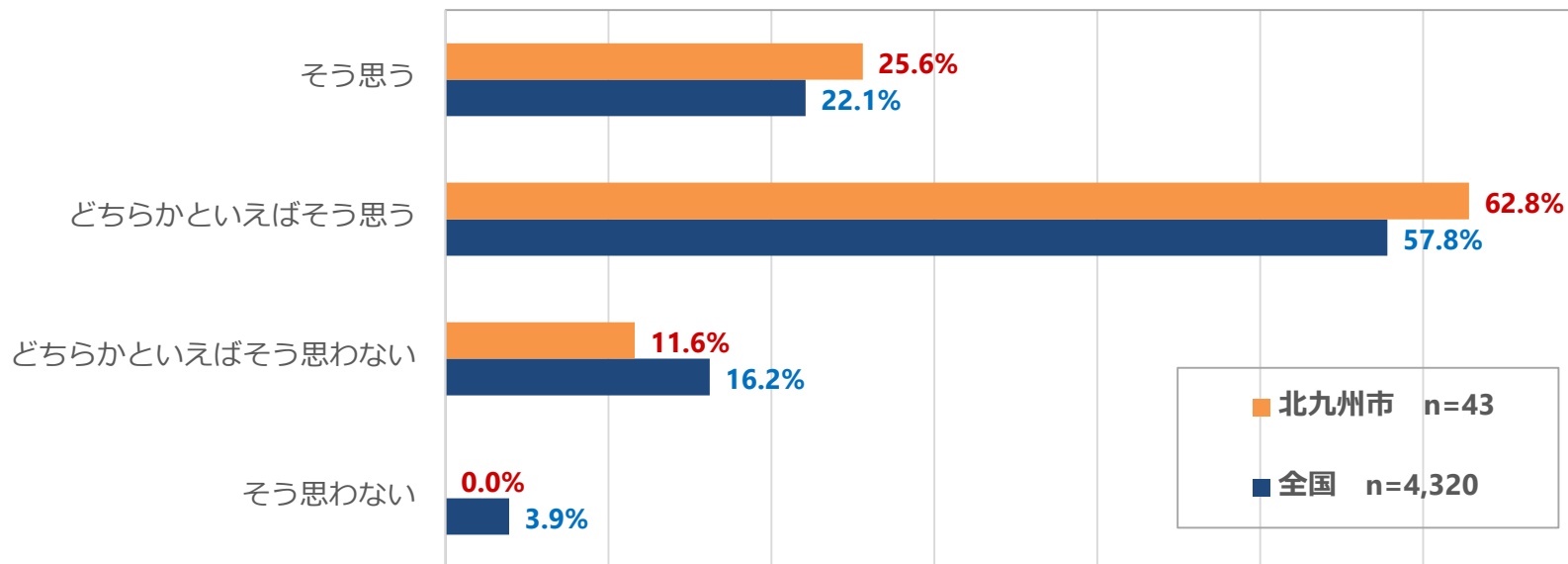
## 《北九州市の女性の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の上位理由》

- 「産科が身近にある」81.6%、「妊婦健診の受診がスムーズである」42.1%、「自治体や医療機関が行うマタニティ教室などが充実している」、「産科が充実している」23.7%

## 《北九州市の女性の「どちらかといえばそうわない」「そう思わない」の上位理由》

- 「産科が充実していない」、「妊婦健診の受診がスムーズでない」50.0%、「妊娠・出産の悩みなどを相談できる相手が身近にいない」33.3%

Q.お住いの地域は子育てしやすい環境だと思いますか



《北九州市の女性の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の上位理由》

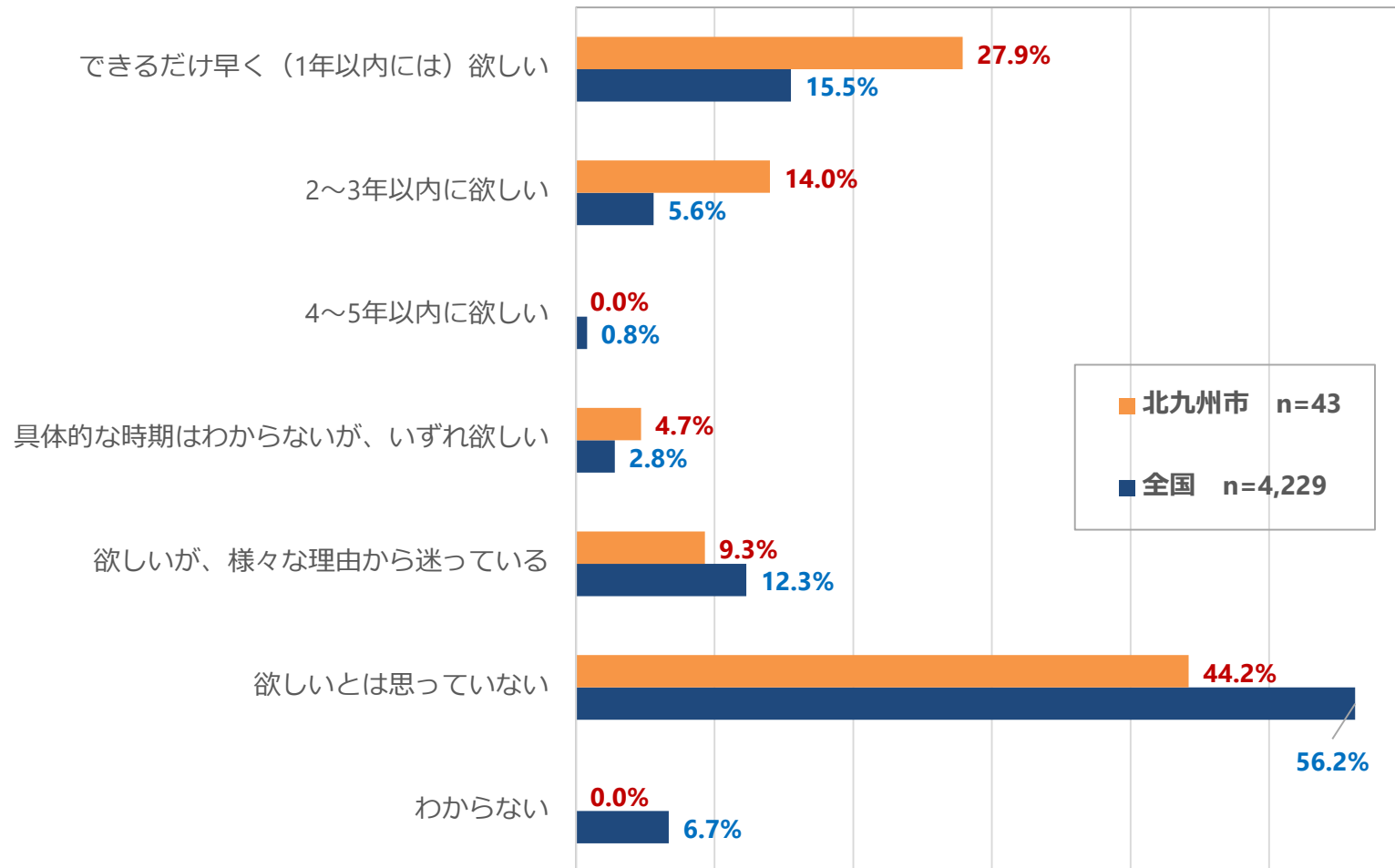
- 「子どもを保育所や幼稚園に預けやすい」57.9%、「ショッピング施設や商店街などが身近にあり買い物しやすい」55.3%、「医療機関が充実している」50.0%

《北九州市の女性の「どちらかといえばそうわない」「そう思わない」の上位理由》

- 「医療機関へのアクセスが悪い」60.0%、「子どもを保育所や幼稚園に預けにくい」、「子どもが遊べる施設・広場などが少ない」40.0%

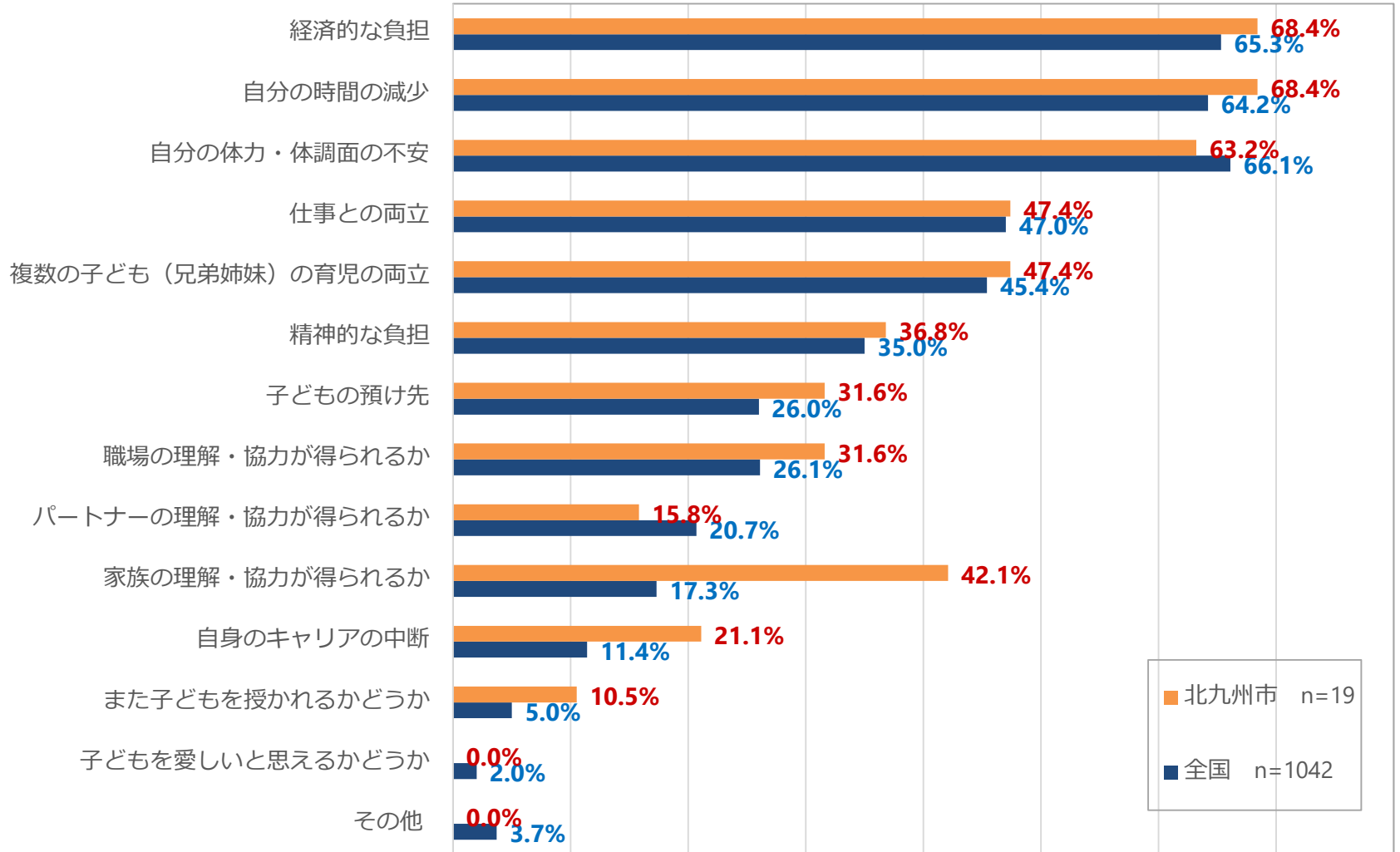


### Q.今後さらに子どもを望んでいますか

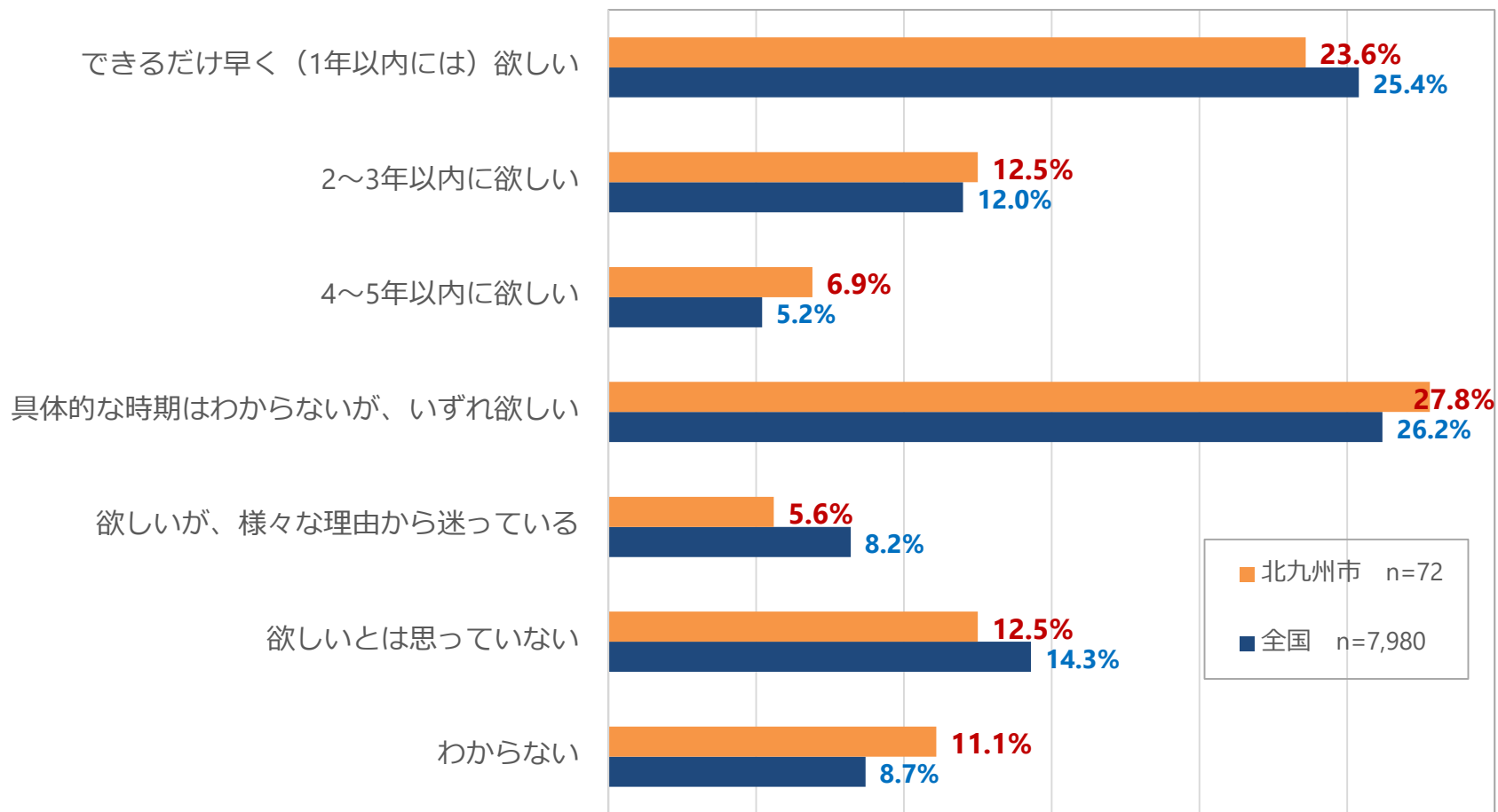


# 第2子以降の子どもを持つ不安として大きいのは 「経済的負担」「自分の時間の減少」「体力・体調の不安」

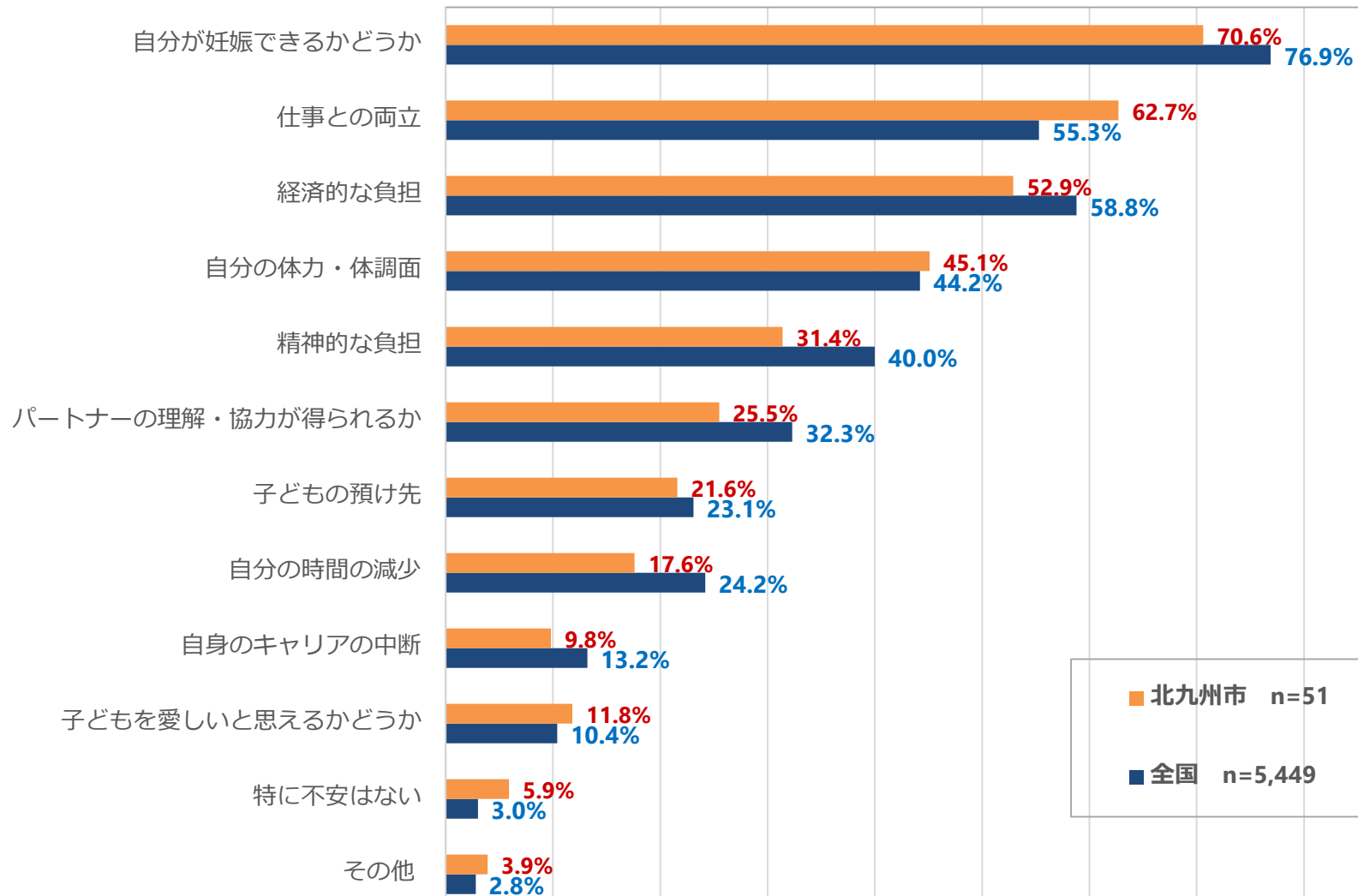
Q.今後、次の子どもをもつことを想定した場合不安なことは何ですか。



Q. (今お子さまがいない方へ) 将来、子どもを望んでいますか。



Q. (子どもを望む方へ) 今後子どもをもつことを想定した場合、不安なことはありますか。



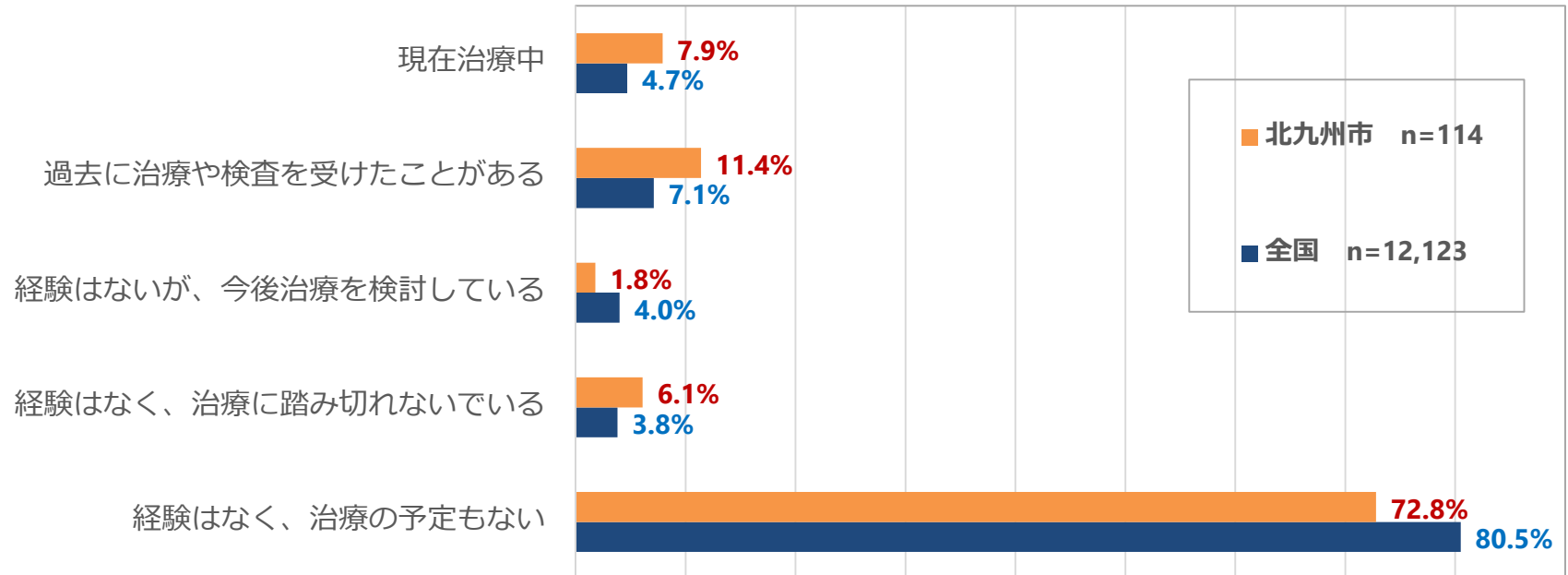
北九州市 n=51

全国 n=5,449

# アンケートに回答した北九州市の女性の約7割が 不妊検査・不妊治療の経験はないという結果に

Q.これまで、医療機関にかかって不妊検査や治療を経験したことはありますか。

(パートナーの検査・治療も含む)



## 《治療に踏み切れない上位理由》

- 「経済的な負担が心配」 71.4%、「不妊という結果が出るのが怖い」 57.1%、「精神的な負担が心配」、「どの医療機関に行けばいいかわからない」 42.9%

## 年齢20代後半から不妊治療を開始する人が増加傾向

Q 不妊治療を開始した年齢を教えてください。

	全国	北九州市		全国	北九州市		全国	北九州市
20歳未満	2.0%	0.0%	30歳	8.5%	4.3%	40歳	2.8%	4.3%
21歳	1.5%	0.0%	31歳	5.6%	4.3%	41歳	2.6%	0.0%
22歳	1.0%	0.0%	32歳	5.3%	8.7%	42歳	1.5%	0.0%
23歳	1.8%	0.0%	33歳	7.1%	4.3%	43歳	0.8%	0.0%
24歳	2.4%	0.0%	34歳	6.2%	0.0%	44歳	0.3%	0.0%
25歳	4.5%	8.7%	35歳	6.7%	17.4%	45歳	0.2%	0.0%
26歳	3.7%	0.0%	36歳	6.6%	8.7%	46歳	0.1%	0.0%
27歳	4.7%	8.7%	37歳	4.5%	4.3%	47歳	0.0%	0.0%
28歳	6.8%	13.0%	38歳	4.0%	0.0%	48歳	0.0%	0.0%
29歳	5.6%	13.0%	39歳	3.1%	0.0%	49歳	0.0%	0.0%
						50歳以上	0.0%	0.0%

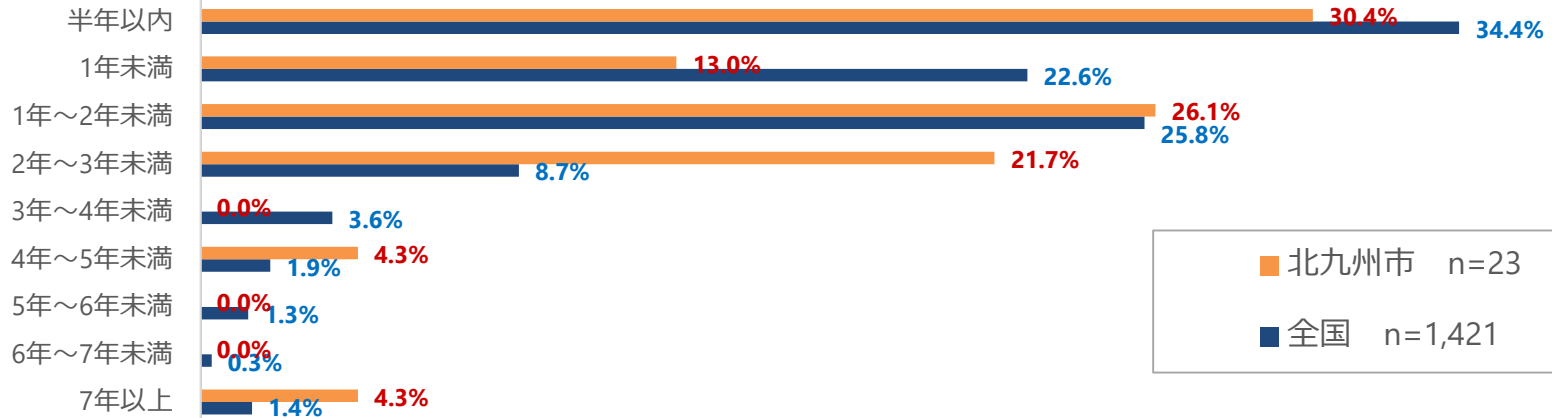
★パートナーの治療開始年齢は30歳～40歳で増加する傾向

全国 n=1,458

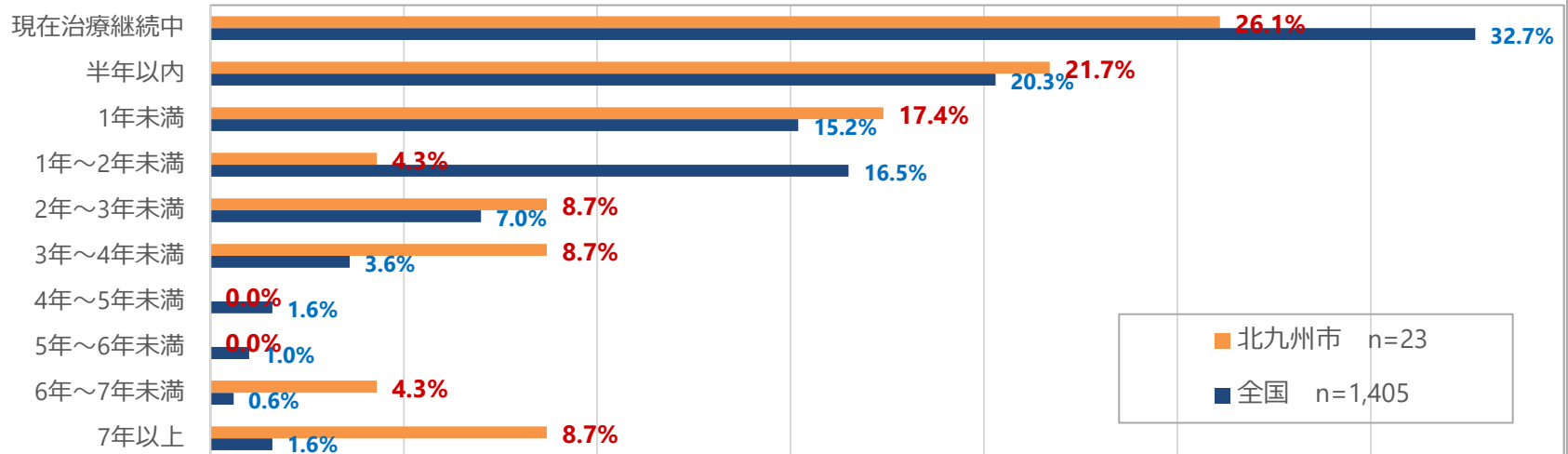
北九州市 n=23

# 妊娠を希望してから医療機関を受診するまで、1年以上かかるケースも多い

Q.妊娠を希望してから医療機関を受診するまでの期間を教えてください。

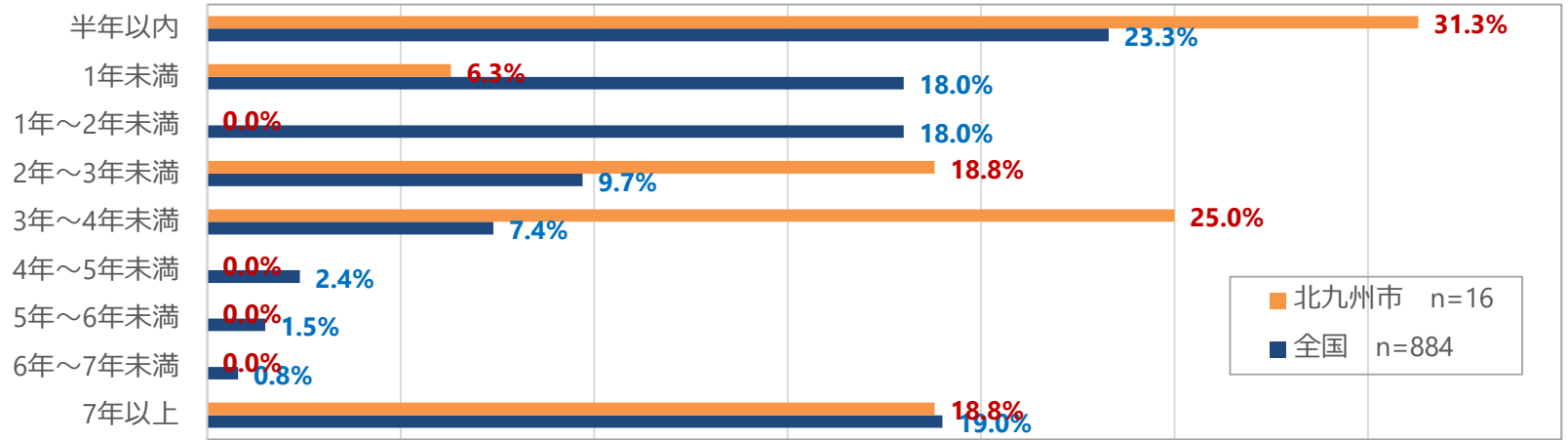


Q.不妊治療を行った期間を教えてください。

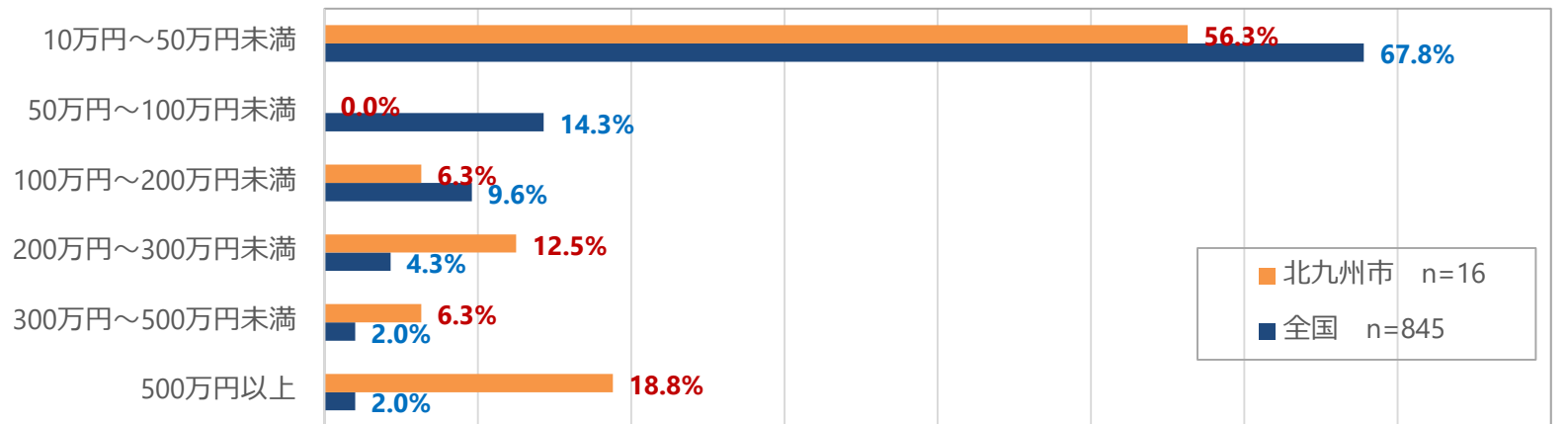


## 不妊治療に要する期間、金額について

### Q. 治療を始めてから、妊娠するまでにかかった期間を教えてください



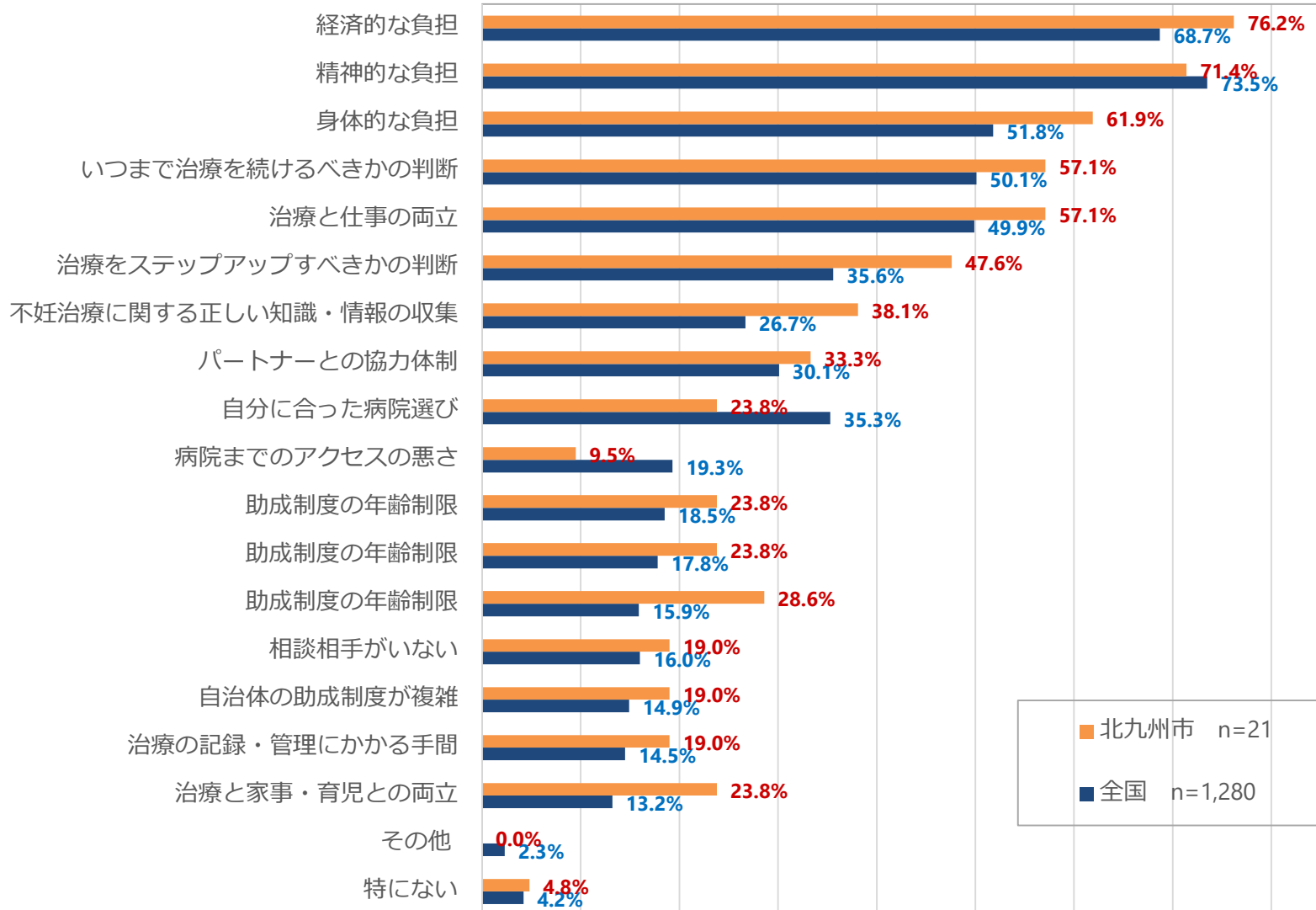
### Q. 不妊検査・治療にかかった費用の総額はどのくらいですか





# 不妊治療についての不安は「経済的な負担」「精神的な負担」が大きい

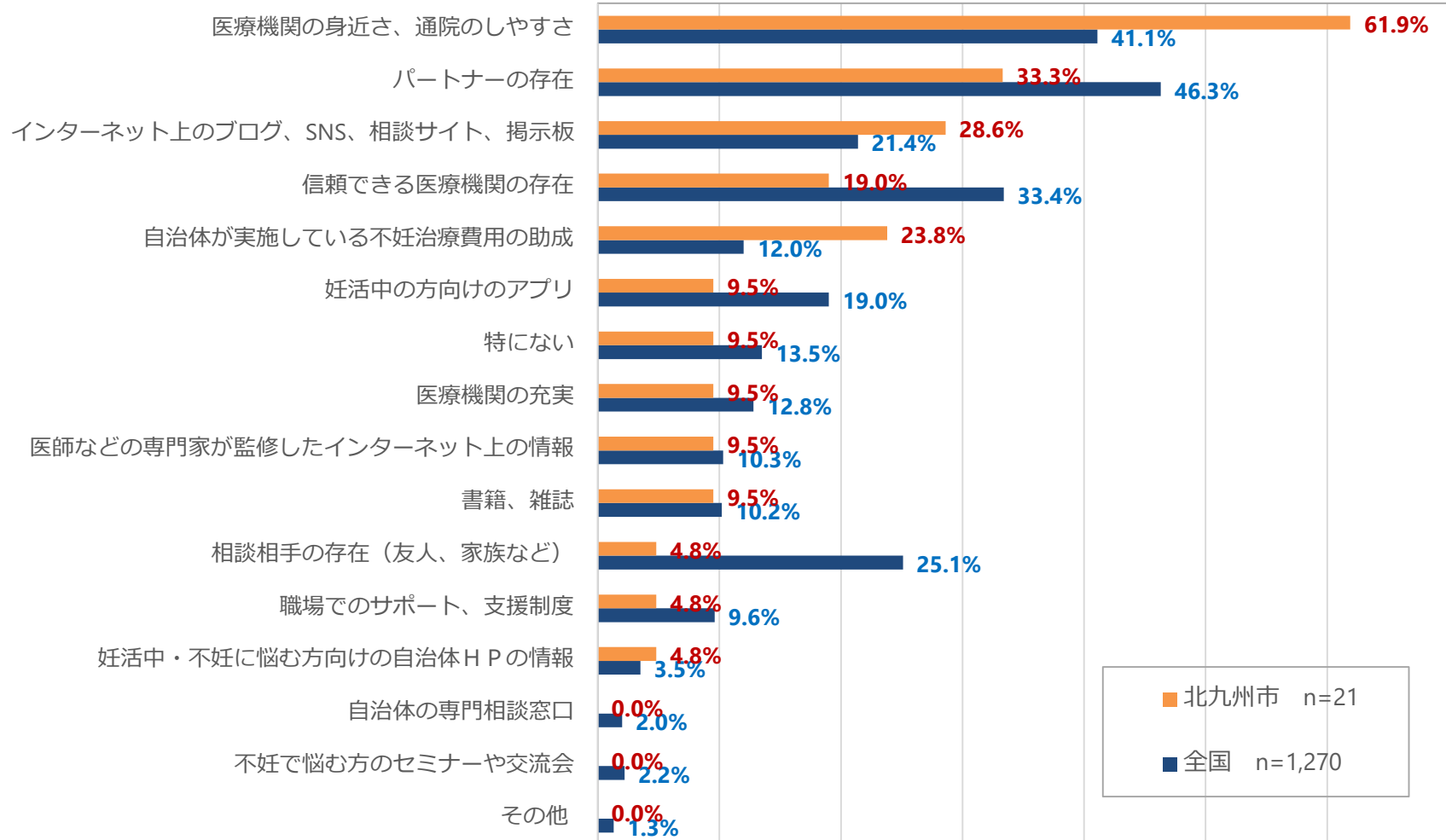
Q.不妊治療についての困りごと・悩みごとを教えてください。



■ 北九州市 n=21  
■ 全国 n=1,280

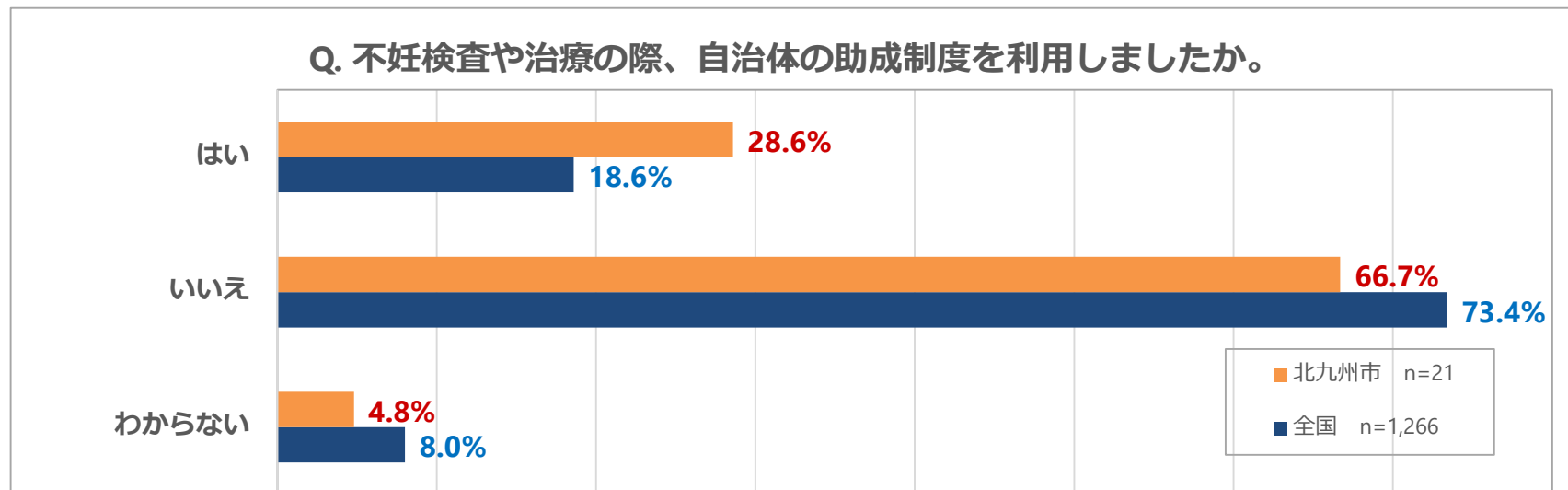
# 医療機関やパートナーの存在が、不妊治療の支えになったという結果に

## Q. 不妊治療を受けるにあたり、どのようなことが助けになりましたか



■ 北九州市 n=21  
■ 全国 n=1,270

不妊治療や検査に自治体の助成制度を活用したのは3割以下。全国は2割以下。



《北九州市の女性の、助成制度を利用しなかった理由 上位》

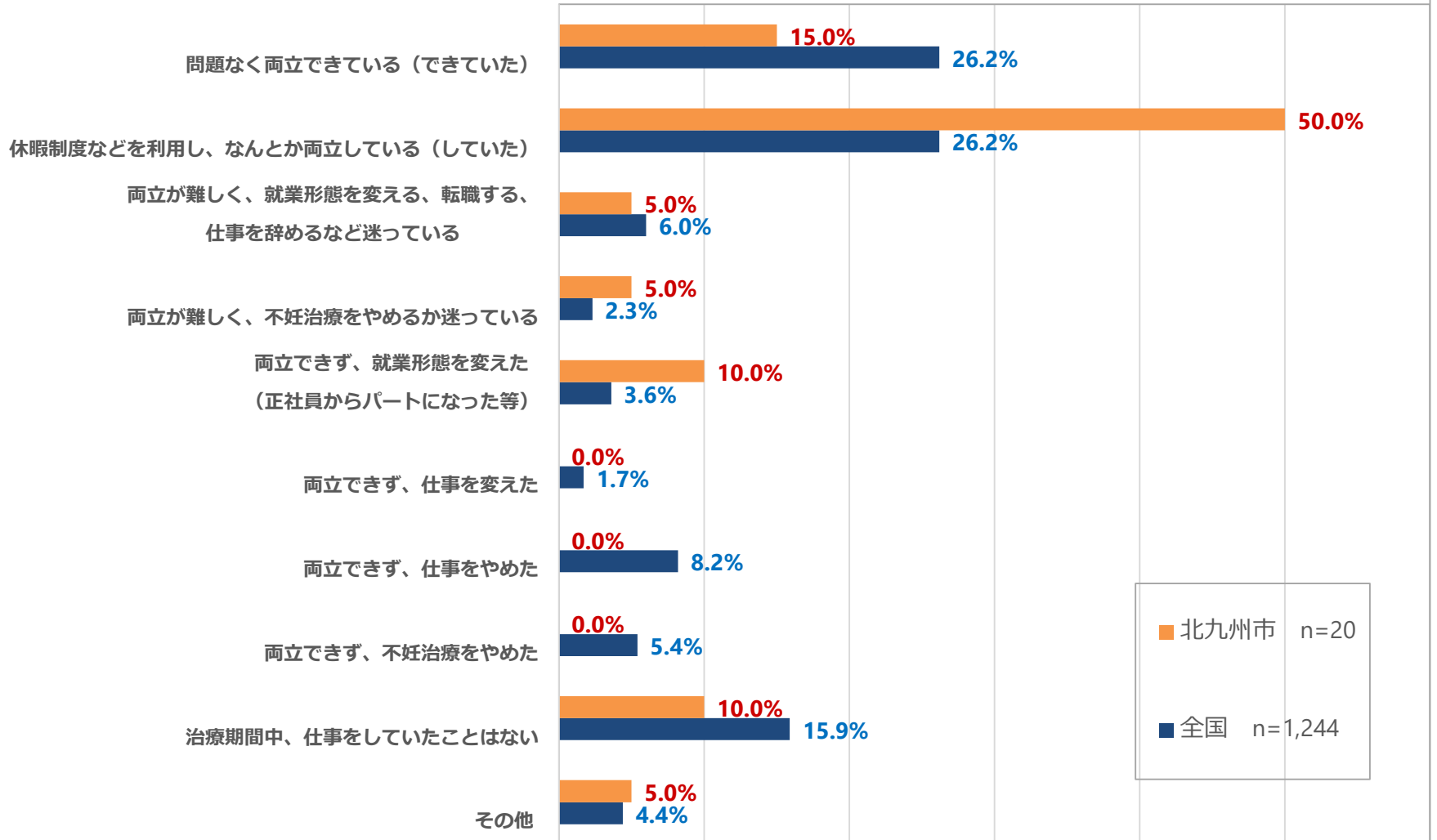
「自分の治療（例：タイミング法や人工授精など）に対する助成制度がなかった」64.3%、  
「助成制度の存在を知らなかった」35.7%、「所得が助成制度の対象外だった」28.6%

《北九州市の女性が助成制度に求めること 上位》

「所得制限をなくしてほしい」70.0%、「助成回数の制限をなくしてほしい」65.0%、「不育症検査・治療に係る費用も助成対象にしてほしい（又は助成額を拡充してほしい）」60.0%、「年齢制限をなくしてほしい」「人工授精の費用も助成対象にしてほしい（又は助成額を拡充してほしい）」55.0%、「体外受精・顕微授精などの助成額を拡充してほしい」「タイミング療法の費用も助成対象にしてほしい（又は助成額を拡充してほしい）」50.0%

不妊治療と仕事の両立が問題なくできている人は15%。全国では約25%。

Q. 不妊治療と仕事を両立できている（できていた）と思いますか。



■ 北九州市 n=20  
■ 全国 n=1,244

## 不妊治療への支援として具体的に求めるものとは

## Q.北九州市の女性が求める不妊治療への支援策 上位回答

「不妊治療を保険適用にする」 79.3%

「不妊治療の助成金を拡充し経済面の支援を行う」 62.1%

「不育症検査・治療を保険適用にする」 58.6%

「企業が不妊治療に使える休暇制度を導入する」 48.3%

「不育症検査・治療に係る費用を助成し（又は助成金を拡充し）経済面の支援を行う」 44.8%

「不妊や不妊治療についての正しい知識・情報を発信する」「男性の不妊や不妊治療に対する理解を向上させるための情報を発信する」「企業が柔軟な勤務（勤務場所・勤務時間の変更など）を可能とする制度を導入する」 41.4%、

「学生などの若いうちから不妊や不妊治療の教育を行う」 34.5%